

点検の不動産利活用

第34回

一般財団法人日本不動産研究所

三豊市は、香川県西側に位置し、総面積約223平方キロで、県庁所在地の高松市に次ぐ、県内の番目の面積。また、人口約6万1700人（国勢調査を基にした推計人口）で、高松市、丸亀市に次いで3番目に人口が多い都市である。主要な産業は農業・食品加工業で、観光地としては「日本のウニ塩湖」（乾季に「天空の鏡」と呼ばれる絶景が生まれる）としてSNS（ソーシャルネットワーク）キングサービズで人気が高まっている。

SDGs 未来都市

三豊市は、20（令和2）年度「SDGs 未来都市」に国から選ばれた。これは、SDGsの達成に向け地方自治体を支援するため、18年から特

県内初の「SDGs 未来都市」選定 香川県三豊市

CSR活性化、街並み再生も

に優れた提案をした都市が選定されており、香川県からは初の選出である。

企業CSRの活性化

SDGs 未来都市に選定されたことを受け、30年のあるべき姿とその実現に向けた20年度から22年度までの取り組みを明らかにした「SDGs 未来都市計画」を策定した。

SDGs 未来都市計画の中で、自治体SDGsの推進に資する取り組みとして、経済面では、①観光収益の向上と地域法人化の促進・観光関連企業の誘致、②新技術開発・商品企画の協働法人の増加、③人流強化のための企業CS

Rの活動活性化・企業のまちづくり参画誘導が挙げられる。社会面では、①AI・ICT活用による多極分散ネットワーク型まちづくりの強化、②移住・定住の促進と支援である。環境面では、

- ①環境都市みとよ
- ②最新鋭ごみ処理施設
- ③有害鳥獣の駆除
- ④タラ財

団の海洋環境調査への支援が挙げられる。

この中で、特に不動産に関わりがあるのが、経済面の取り組みである③人流強化のための企業CSRの活動活性化・企業のまちづくり参画誘導で、敷地面積5畝以上を有する立地企業数を現在の7件から24年度には9件を目指している。それにはインフラの老朽化が工場誘致の懸案事項になっており、関係機関との調整を行うことにより、現在の未利用地からの脱却を目指す

ものである。また、社会面の取り組みである②移住・定住の促進と支援では、空き家バンク制度により、空き家の情報発信を行い、また、リフォームに対する補助金により不動産の利活用を目指すものである。

街並み再生「仁尾縁」

このような行政とは別に民間の取り組みで、不動産の利活用、再生として始まったのが、仁尾縁（におよすが）である。仁尾縁とは、仁尾の街並み再生プロジェクトで、地元

ある建物を後世に残し、商家の街並みや文化を保存することで、この土地で生活している人々と訪れる人との縁、伝統ある価値と新しい価値との縁を紡いでいくためにスタートした。第1弾として江戸時代の商家を再生した「多喜屋（たきや）」とフロント機能を

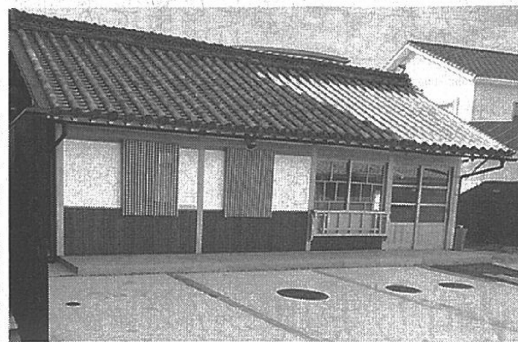
持つ「表店（おもてだな）」の宿泊施設を始めた。更に今後、少しずつ古民家を再生させ、商店や宿泊施設を増やしながら古い街並みを再生させ、再び地域のにぎわいがよみがえるようにしていく。



三豊市仁尾町の街並み



④江戸時代の商家を再生した「多喜屋」
①フロント機能を持つ「表店」



の建設会社が残すべき価値（高松支所、不動産鑑定士・富永和志）